

令和5年度指定管理者評価シート

1 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市宇宙劇場
(2)施設概要	①所在地 さいたま市大宮区錦町682番地2 JACK大宮 ②施設の設置目的 市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため ③施設の概要 3～5階 ホール 傾斜型ドーム(直径23m) 座席数 280席(車いす席あり) 5階 第1集会室・第2集会室 定員各36名 第3集会室 定員20名、研修室 定員48名
(3)指定管理者	株式会社五藤光学研究所
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和3年度114,882千円、令和4年度109,431千円、令和5年度117,568千円
(5)施設の管理運営の内容	①運營業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・会議室等利用者数48,579人(前年度41,401人) ・ホール関連事業利用者数65,839人(前年度53,010人) ◇業務実施状況 ・集会室等の貸出し ・プラネタリウムの投映、全天周ドーム映像の上映 ・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施 ・天文・科学・文化の普及活動・地域団体への支援活動 ・利用促進・広報活動 ・YAC(日本宇宙少年団さいたま支部)事務局運営及び活動支援 ②維持管理業務の状況 ・施設設備、備品等の保守管理 ・施設の清掃 ・施設の機械警備 ③その他の業務
(6)収支状況	①収入 ・利用料金収入34,023千円 (前年度28,337千円) ・指定管理料117,568千円 (前年度109,431千円) ・その他収入210千円 (前年度657千円) ②支出 ・人件費100,546千円 (前年度97,370千円) ・事務費2,779千円 (前年度2,732千円) ・施設管理費及び事業費34,898千円 (前年度25,122千円) ・その他管理経費9,523千円 (前年度5,730千円) 【自主事業】 ①収入 15,305千円(前年度11,537千円) ②支出 13,862千円(前年度9,719千円)

(7) 利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	・プラネタリウム投映について、目の不自由な方向けのサービス提供の希望があり、「みんなの時間」において、天体の位置を示す際などに音像移動の機能を利用し、「あちら・こちら」という言葉による表現ではなく、視覚に頼らないかたちで目の不自由な方向けのサービスを提供した。 ・また、耳の不自由な方向けに字幕付きの投映をして欲しいという声があり、スマートフォン等の文字お越しアプリケーションを利用したサービスを検討し、実施に向けての検証と準備を行った。 ・プラネタリウムの座席が狭い、リクライニング付きの椅子が欲しいとの声があったため、椅子の改修資料を作成し、さいたま市に提案した。 ・WEBサイトについて、当日の投映詳細がわかり辛いとの声があり、一部改修し、改善を図った。 ・大宮駅構内から宇宙劇場までの道のりがわかりにくいと声があり、電話での問い合わせに対する案内文を改善した。 ・館内が暑い、寒い等の声があり、随時、スタッフにてビル管理業者と連携し、利用者にとって快適な環境を提供する努力をした。 ・展示が少ないという声に対応し、企画展示のスペースを拡充し、展示物を増やし改善を図った。 ・宇宙劇場の集会室・研修室を知らなかったとの声に対し、近隣のビジネスホテル等に貸し部屋の冊子を設置し、広報を行った。
(8) その他	

2 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
市民の平等利用のための方策	ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、全職員に対して社会教育施設向けの接遇研修、施設ミッション研修等を実施した。また、障がい者の皆さまが安心して施設を利用いただけるよう、さいたま市障害政策課へ依頼し、ノーマライゼーション条例に関する研修会を実施。館内掲示にもやさしい日本語を使い、ホームページの多言語化も行った。
施設の安全管理	「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」を基本とし、さいたま市消防局の指導をいただきながら大宮情報文化センターの防災訓練(地震・火災)、宇宙劇場独自の防災訓練(地震)を実施した。また、火気関係・閉鎖障害等に対して、毎日自主検査を実施し、施設及び設備等に対して毎月事故防止点検等を実施した。
利用者の満足度の向上	利用者満足度の向上に資する事業として、以下に挙げるような取り組みを実施した。 ・プラネタリウム100周年記念事業の開催 プラネタリウム100周年記念事業の一環として、全国のプラネタリウム施設と連携したイベントを実施した。また、プラネタリウム番組「小さな星のプラネタリウム」をさいたま市宇宙劇場のオリジナル番組として制作し投映。企画展示事業として「プラネタリウム大解剖」展を実施した。 ・プラネタリウムにおける集客事業の実施 さいたま市民の日に投映内容も市民の日の趣旨に合わせ、市民の参加・活躍の場として、埼玉大学の大学生や市民団体が企画・投映する「市民の時間」を2回盛り込んだ。 声優星空朗読会「ほし×こえ」を本年度は3日程6日間計12公演を実施し、普段はプラネタリウムに足を運ばない声優ファンの来館を得た。また普段とは異なる客層に対して宇宙劇場の存在を広く告知することができた。 ・同じJACK大宮ビルに入居する放送大学埼玉学習センターと共催講演会を開催。SDGs目標の一つ「質の高い教育をみんなに」に合致する事業として、放送大学共催講演会を開催した。 ・特別投映「癒しの時間」の定期実施 プラネタリウムに癒しを求める市民の声に応えるため、特別投映「癒しの時間Star Light Healing MALAMA HAWAII」を企画・制作した。制作にあたり、音とリラクゼーション効果を科学的に研究するサウンドヒーリング協会と協働し、癒し効果の高い自然音をドーム空間で立体音響として提供するとともに、ハワイの美しい映像と星空、音楽を融合させた番組を投映した。 ・集会室等の貸出手続きについて、利用者にわかり易いように、随時見直し、マニュアルを更新。職員研修も行いサービス向上を図った。 また、集会室・研修室の点検を毎日行い貸し出し備品の点検も毎月行うことで、快適で使いやすい環境を維持した。
効果的なアンケートの実施	・ネットプロモータースコア(Net Promoter Score:NPS)の実施 今年度も昨年度に引き続き、世界的に実施されているNPSを求めるアンケートを実施し、利用者の施設利用満足度を分析した。 今年度のスコアは49.0(昨年度40.3)であった。(このスコアは東京ディズニーランドやハウステンボスと同じ程度の高い値となっている)。 また、このアンケートデータを活用し、WEBサイト改修や、施設の導線の改善や運用変更を実施し、更に利用者の施設利用満足度をあげることが出来た。

天文・科学・文化の普及活動	天文・科学・文化の普及活動として以下を実施した。 ・学校連携及び体験型プラネタリウムの拡大 県内6校の高校と連携し、通算3回目となる「高校生プラネタリウム文化祭」を開催した。高校生へのプラネタリウム番組制作研修は昨年度より高度化し、高校生が自ら主体的に企画・制作に取り組み、専門家との対話やチーム内での対話を通し品質を高め、プラネタリウムを実際に操作しながら発表できるようになった。 未来くるワークにおいては、継続して受け入れを行い、プラネタリウム操作体験を盛り込み、職業体験の深化を図った。 ・星をみる会、太陽をみる会の開催 特別投映と組み合わせた「星をみる会」は、雨天時にも投映だけは実施できる内容とすることで、天候に大きく左右されないイベントとして利用者に定着した。また「太陽をみる会」も市民ボランティアとの連携により、市民と共に学べる場を得ることができた。 ・学習利用、幼児投映の開催 学習投映では、青少年宇宙科学館と連携して、投映を実施した。 幼児投映では、発達段階に合わせた特別投映を期間限定で実施した。 通常投映への団体観覧ではなく、特別投映とすることでより深い体験を提供した。
---------------	---

地域団体への支援活動	・宇宙劇場における地域支援・市民活躍 市民が活躍する場として開催しているプラネタリウム投映「市民の時間」では、市民が企画・投映するのに必要な支援をし実施した。また、市民団体「さいたまプラネタリウムクリエイト」や地域で活動するディレクトフォースといった団体と連携し、ワークショップを開催した。 「星をみる会」等の観望会事業では市民のボランティアにも活躍いただき、当館単独では開催の難しい人数の受け入れや、紹介する天体数を増やすことができた。 その他、地域の企業の大宮アルシェ、DOMショッピングセンター、NACK5と連携してのプロモーションを含めた事業協力など、地域と連携した事業も実施した。 ・館外での地域支援 埼玉大学と連携し、イベント投映や大学の講義の補助を行った。 ・YACさいたま支部支援業務 日本宇宙少年団さいたま支部の事務局運営及び活動支援を行い、各分団長やボランティアと連携し、年間計42回の各種活動を実施した。
利用促進・広報活動	利用促進・広報活動として以下を実施した。 ・オンラインを用いた広報活動の促進 ホームページの随時更新を行うとともに、「X」(Twitter)公式アカウントにより宇宙劇場のイベント情報や投映内容を積極的に発信した。 ・パブリシティの強化 電子媒体、書籍問わず、当館から積極的にプレスリリースを行い、それぞれ読者層の異なる幅広い世代にアプローチした。 ・地域施設との広報連携 大宮区内における各施設との協力事業を広報し、または地域施設へ広報連携を依頼し、所在地近隣における広報活動の強化・認知度の向上を図った。 ・地元FMラジオ放送局のNACK5との連携 NACK5の番組に当館職員が出演し、天文・宇宙に関する話題を提供するとともに、当館事業の紹介を行った。 ・その他広報活動 JACK大宮ビルの外構に宇宙劇場ののぼりを設置し、繁盛期のさらなる集客を図った。また、大宮駅近辺のビジネスホテル等に集会室・研修室の冊子を設置した。

3 評価

(1) 指定管理者による評価

さいたま市宇宙劇場の仕様業務において、市の定める宇宙劇場基本方針を職員全員で共有理解し、施設の設置目的を達成すべく、前項に記載した提案事項を実施し、施設の適切な管理運営を行った。また、「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」・「経費の削減」・「適正な管理運営の確保」について、以下の取り組みと業務を行った。

【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進等に関する取り組み】

- ・利用案内に関する内規を定め、マニュアル化することで均一な対応とサービスを提供した。
- ・宇宙劇場条例を基本とし、障がい者等へは必要な合理的配慮を行い市民サービスの向上を図った。
- ・市民への施設認知度の向上をもって利用促進を図るため、市民団体、地域企業、異分野・異業種の専門家とのコラボレーションを積極的に推進し、普段プラネタリウムを利用しない利用者層へのアプローチも行い、特にプラネタリウム利用促進を図り、利用者数を伸ばした。貸し部屋事業の利用促進についても所管課と連携、市民サービス向上策を協議の場を設定し検討を行い、貸し出し備品の拡充を図った。
- ・NPSアンケート調査を年間を通して実施し、管理や運営へフィードバックし、運営の改善を行い市民サービスの向上を図った。また、改善した内容を館内掲示板にて利用者へ周知した。
- ・施設ホームページを改修し、利用者へより分かりやすい案内と情報を提供した。
- ・プラネタリウムメーカー及び映像プロダクションであるノウハウを活用し、市民のニーズにあったオリジナル番組(久石譲の音楽とともに人と宇宙の関わりを紹介する内容)などを制作することにより、利用者の満足度向上を図った。

【経費の削減】

- ・早く利用が終了した部屋等は空調を止め、照明を切るなど、こまめな節電を実施した。
- ・定期的に貸出備品の点検を行い、職員によるメンテナンスや早期修繕を実施し、利用者へのサービス向上を図ると同時に経費を削減した。
- ・効率的なスタッフの交番シフトを組み、適切な人員配置を行い労務経費を削減した。
- ・消耗品の購入や修繕を行う際には、必ず3社以上からの合い見積もりを取り、購入や発注を実施し経費を削減した。
- ・プラネタリウムメーカー及び映像プロダクションであるノウハウを活用し、自社でプラネタリウム番組を制作することで運営経費を削減した。

【適正な管理運営の確保】

- ・職員が随時施設内を巡回し、安全確認及び施設の不具合等を確認。
- ・災害や危機発生時のマニュアルを整備し、定期的に避難訓練を実施した。
- ・プラネタリウム機器、券売機、清掃業務、夜間警備が確実に実施されているかを管理し、システムに不具合が発生した際には、迅速に適切な対応を行い、遅滞なく所管課へ報告を実施した。
- ・宇宙劇場条例や、運営仕様、協定内容を厳守し、施設の運営を行った。
- ・業務に必要なスキルを持った人員を配置するために、社内外での研修を実施した。
- ・省エネ(節電)、リサイクル(エネルギーや再生紙の使用)を徹底し、環境への負荷を減らす運営を実施した。
- ・情報セキュリティ対策として、個人情報保護に関する研修会を全職員に対して実施した。
- ・毎月の事業報告にて施設の利用実績(利用者数、収支、実施事業)の報告を遅延なく行った。
- ・YACの野外体験事業を実施する際もスタッフを動員し、参加団員が安全に活動出来る様に支援した。

(2)さいたま市の評価(評価担当課:教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館)

総合評価(B)※A~D

1 項目別の評価

①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進については、利用案内をマニュアル化し均一な対応とサービスを提供することができた。また、市民団体や地域企業等との連携を推進し、施設の認知度の向上を図るとともに利用促進を図ることができた。

②経費の削減については、指定管理者がプラネタリウムメーカーであるノウハウを活用し、プラネタリウム番組制作において経費を削減するとともに、市民ニーズに合った番組制作をすることで、利用者の満足度向上を図ることができた。

③適正な管理運営の確保については、条例、運営仕様、協定内容を遵守し施設の運営を行っている。また、随時施設内を巡回し、安全確認及び施設の不具合等を確認した際は迅速に適切な対応を図ることができた。

2 総合評価

・市民団体や地域企業等と連携した取組みやプラネタリウムメーカーのノウハウを活用した施設運営を行っており、市が求める水準を満たしていることから総合評価をBとした。

(3)来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き、施設認知度の向上や利用者促進を図る取組みを推進するとともに、市民サービス向上につながる取組みを実施するよう指導していく。